

「木に親しむ日」の木工教室 参加者募集

今回のモノづくりは、以前に一度製作し参加者の皆さんからも好評だった「はぎ合わせ材を使用したサイドテーブル」を作ります。数種類の材料から天板を作っていき面白さはそのままに、前回から少しだけデザインを変えたものを作っていきます。

参加受付は6月2日(木)～6月12日(日)までです。申込み先着順で、定員になり次第締め切らせていただきますので、参加を希望される方はお早めに森林工芸館(52-3170)までご連絡ください。

内容：はぎ合わせ材を使用したサイドテーブル
日にち：7月から9月までの全6回 …………… 詳細は→
時間：19:00～21:00
場所：森林工芸館(旧開発センター)木工室
対象：18歳以上の置戸町民
定員：5名
参加費：5,000円(初回にご持参ください)
講師：那珂 琴絵(どま工房研究員)



※写真は前回作業時のもの

◎今年のスケジュールは下記のとおりです。

日程：7月5日(火)、7月19日(火)
8月5日(金)、8月19日(金)
9月5日(月)、9月20日(火)

※新型コロナウイルスの感染状況により、日程は変更される場合があります

【長旅の相棒 - 草鞋(わらじ)】

自然に囲まれた生活を送る日本では、古くから身のまわりにある素材が活用され、中でも稲作の副産物として得られる藁(わら)からは、様々な生活用具が製作されてきました。

旅の必需品として使用された草鞋もそのひとつです。鼻緒の部分から長く伸びた紐を、足首に巻きつけることで足と一体化するように履くため、長時間の歩行に適し、旅や労働時の履物として重宝されました。草鞋が旅でよく用いられることから、「草鞋をはく」が旅に

出ることを意味し、「草鞋をぬぐ」が旅を終えたことや宿に落ち着いたことを意味するようになりました。また、旅は下界、未知の世界に通じる行為とする考えがあり、旅の履物とされた草鞋は、信仰とも深く結びつき大草鞋を奉納するなど、安全を祈願する風習として各地で広く伝えられました。



今日は何を知ろうか



【長距離を運ぶ】

⇒急を要する書類や金銀などを、自らの脚で運ぶ「飛脚-ひきやく」が身につけていた履物も「草鞋-わらじ」であったとされている。



秋田コレクション 田舎のギャラリー

【置戸町立図書館の展示品】

置戸町立図書館では、現在、様々な場面で使用される「槌(つち)」の展示を行っています。家庭で使用されるものから、職人が使用する特殊なものまで、用途に合わせて形状を変える様々な槌を展示しています。置戸町立図書館にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

- オケクラフト出品のお知らせ - 「ものにはまわりがある展」

「ものまわり」をテーマに、地域のものづくりや、場所、食文化、活動を紹介する展示。

その土地らしいプロダクト、場所、食文化、活動を「もの」として捉え、その「まわり」を会場内で紹介する。

北海道の展示品として「オケクラフト」が出品されています。



会期：2022.5/16(月) - 9/19(月)
時間：12:00～20:00 水曜定休
場所：d47 MUSEUM(渋谷ヒカリエ 8F)

今月の一品

かくれた一品 おすすめの一品 私たちの一品をご紹介します!



※写真で手にしているサイズはロング

商品名：小枝マドラー
サイズ：ショート 22cm、ロング 25cm
価格：ショート 1,320円(税込)
ロング 1,650円(税込)
樹種：カバ・ナラ他

私がおすすめる一品は、「小枝マドラー」(アトリエもくれん作)です。小枝の皮をむいたかのような自然な仕上がりですが、実はこれ、細長い板から1本1本削り出しているのです。

「小枝をマドラーに」という遊び心から生まれたこの小物は、その形状の面白さだけでなく手馴染みが良いので、楽しく、飽きることなく長く愛用できます。

ジュースやハイボールなど日常の食卓に、またキャンプにも良いですね。

これからの暑くなる季節にピッタリな小枝のマドラー。おすすめです。



ショップ販売員 青木